

県央・林業部トピックス (2月号)

ニホンジカのライトセンサス調査を実施しました。

近年、中国山地のニホンジカは、隣県からの分布拡大により県境の市町において、目撃や捕獲数が増加しています。

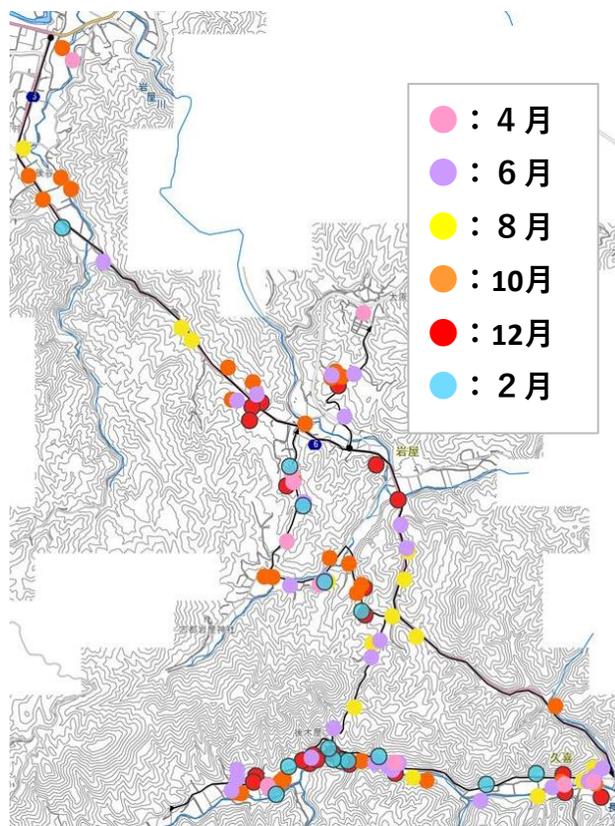
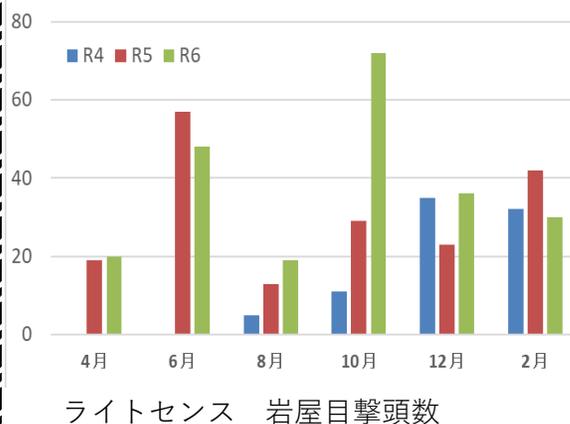
今後、計画的に被害対策を進めていくうえでシカの頭数増減や分布範囲のモニタリングなどが必要です。県央事務所では令和4年8月より邑南町で2ヵ月に一回ライトセンサスによる調査を行っています。

ライトセンサスは、日没後に低速走行の車からスポットライトを照らし、個体確認できたシカの数のカウントします。多くの動物の眼は夜間ライトをあてると反射により眼が光るので遠くにいるシカも見つけることができます。

調査地は広島県境の大草、岩屋および伏谷の3箇所を実施しています。今回、2月の調査では大草で0頭(0頭/km)、岩屋で23頭(2.67頭/km)、伏谷で2頭(0.71頭/km)のシカを確認しました。一方、令和4年度から3年間の調査で一番多く確認されたのは、令和6年度10月の調査で目撃頭数は72頭で増加傾向にあります。

岩屋地域周辺では拠点団地、国有林も含め、主伐・再造林が行われている箇所があり、他地域以上に早急な対策が求められます。

被害対策は防護柵と捕獲の両輪で実施していく必要があります。しかし、岩屋地域をはじめ多くの地域で捕獲者の高齢化が進んでいます。その為にも囲い罠を使用した効率的な捕獲方法の確立や、新たな担い手の確保そしてベテラン捕獲者からの技術の伝承が今後の課題です。



造林地内にいたニホンジカの群れ

令和7年度 岩屋地域のニホンジカ目撃箇所